

2021年4月1日(木) 晴

大阪はよく晴れて、日差しは初夏のよう。気温の高さが続き、換気のために窓が開いている地下鉄車内もちょっと暑かった。どんどん春の期間が短くなっているのか。

－ 語彙3割、音調7割 －

“これでいいのかなぁ…?”。家の片づけをしながら、かけっぱなしにしていたラジオで始まった人生相談の番組。それまで聞き流したのに、思わず耳をそばだてました。

親きょうだい関係の悩みを電話で話すアラフォーらしきリスナーの女性。回答する専門家は2名。メインの一人がまず話し、それを受け、もう一人がフォローして締めくくるという構図。

驚いたのはメインの先生の話し方。そんな断定的に言っているのかしらと感じるほど。フォローの先生も声のトーンは低いものの、あなたはこういう人です!と言いきる。

わたしが知らないだけで、その世界ではこれが当たり前? そんなことはないだろうと思いますが、相談者は「はぁ…」、「そうかもしれません…」を繰り返し、最後には“わかりました”という感じで電話を切っています。

オープンな場での一回きりの相談ですから、それを承知で事が成り立っているのですが、聴いていたこちらはモヤモヤ。

前回も紹介した『私の日本語雑記』(中井久夫)で著者は、アメリカの精神科医「ハリー・スタック・サイヴァン」の言葉を紹介して、〈音調〉の大事を語っていました。

「詩においても、精神医学的面接においても、〈言語的精神療法〉というものはない。あるのは〈音声的精神療法〉だけである」。

言語的=Verbalではなく、音声的=Vocal。ある音楽家の観察によると、コミュニケーションは3割が語彙、7割は〈音調〉。話の内容が同じでも、音調が平板は人は、人に響きにくい。これはわかりますね。

わかっている、人の心に響くような調べを奏でるのはむずかしい。これも自己鍛錬が要りそうです。

2021年4月6日(火) 晴れ

昨日今日は低い気温。空気がキリッとして、いい。「清明」もすぎ、日が長くなってきた。これからは八重桜が見頃で、「通り抜け」も準備万端。だったはずだけど、直前で中止の決定。来年こそは?

－ 多様な社会、自分の居場所 －

今日の音声版でも話しましたが、自分ならではの世界に旅を始めた人はそこここにいます。直接は知らなくても、どこかで奮闘している。そう思うと、励みになりませんか。

創作活動をする旧友と3年ぶりに会ったら、工房を開いてから9年余り、その歳月の切磋琢磨ぶりがしのばれました。10年目を前にしたここ数年の〈格闘〉が新境地を開いたようでした。

けっして想うようにはいかないけど、だからこそ内に湧く闘志。そして、潔さ、あるいは諦観。そんなものを獲得したように見えました。これこそ大きな力になっていくに違いありません、これから。

『類は友を呼ぶ』。いつもよく使っている言葉ですが、3年ぶりに会った旧友に紹介された人もまた自分の世界をもつ創作者。まだまだこれから世界が創られていきそうな方。

マスメディア、ネットニュースの伝える社会とは違う社会が世の中にはたくさんある。どこを自分の居場所とするかは、自分しだい。社会は実に多様性に富んでいます。

2021年4月9日(金) 晴れ

今日も晴れ、気温は低め。予定では昨日から始まっているはずの「通り抜け」、昨日の夕刊に桜だけの写真。来年こそは人入りの写真をみた

ー 区切り、切断、響き ー

この時季は人事異動のシーズン、身近な人たちにも変化。予定どおりの異動もあれば、予想外の例もあり、「一番思い入れがあったのに…!」と、担当をはずれた事業に後ろ髪をひかれる感じで別の地へ移っていっ

自分でマネジメントしていると、他から命令のくだる「異動」はありませんが、ある節目に新しいことを自分に課していく必要があるというか、そうしていかないと続いていかない。始めるは簡単、続けるは至難、です。

おりにふれよく引用している『美学入門』(中井正一)からの一節を、メモした箇所すべてをあらためてご紹介しましょう。2010年の夏に読んだ本で、読書メモには、わざわざ赤ペンで、「非常に重要なことが書かれている」と注をいれています。

お能の太鼓。それまで一切の時間を、切って捨てたような感じ。前にも後にもない、鋼鉄のようなしまりきった時間を、ポンと、凝集し切った形できめつけるような太鼓。

頭の中のものを裂かれるような快さ、モヤモヤした何ものものが脱落しきった感。これが日本の「間」という日本の芸術の時間なのである。

時間が、糸のように連続して流れていると思っていたのに、むしろ切断されてしまって、本当の自分が流れ動き、新しいものになっていると感ずるのである。

前の時間が、そのまま流れているのは滞っているのである。切って捨てて脱落して、新しく生れるからこそ生きているのである。

「間」というのは、この生きていることを確かめる時間の区切り、切断、響きなのである。

最後の一節がいいですね。あえて、「間」をいれる。しばらくは「混沌」が続きますが、その先に新天地が待っている、そう思うのですが、いかが

2021年4月10日（土）

大阪城公園早稲田の森

週末晴れのお天気は久しぶり。空は青空、空気はカラッとして、気持ちのよい土曜日。散歩がてら、事務所に植木鉢をプラスしようと、持って行った帰りに、大阪城公園へ。

観光客はほとんど来ない一画、「早稲田の森」に入ったら、八重桜が満開。しばし愛でて、側にあった大きな石のベンチで一服。元受講者の方から厚い手紙が届いていたので、ここで読むことに。

すると、目に先のむこうから妙な声。男性が鳥の鳴き声をマネしたような感じで声を張り上げた。一瞬、この場をはなれようかと思ったけど、陽も明るいしと思って、そのまま手紙を読み始めて、気をとられていたら、急に、「あの、ちょっと、すみません」。

顔を上げると先ほどの男性。“あらっ、どうしよう…”と思っても後の祭り。仕方ない、平然と、相手の次の言葉を待つと、この森に設置されていたプロジェクマッピングの機器のことを尋ねてきた。

自然の森に不釣り合いなあの機器が嫌だったと言う。「同感です」と応じ、次の問いにも手短かに応えていたら、もうこれ以上ジャマしてもダメかと思ったようで、離れていった。

悪い人ではなく、ちょっとヘンな人には違いないけど、それも都市で暮らしているからのように見えた。田舎暮らしが合っそうな人でした。



2021年4月13日(火) 曇→雨

大阪は雨がパラツキだした。今日明日にかけて荒れ模様になるとか。新緑が目につきだした。都市の風景もしばらくは和む。

－ 「健康」と「謙虚」が明日を拓く？ －

今日の音声版でも紹介しましたが、昨日夕刊に載ったバレリーナの森下洋子さんの「階段を一段ずつではなく、3分の1ずつ上がる感じ」でコツコツ努力を積み上げることは、『究めれば そこが 天職』に通じま

それはわかっているけど、なかなかできないのが凡人。天才はそれをごく自然にできる人のことだろうと思います。コツコツだけではなく、無我夢中、寝食忘れて、できる。だから短命という人も少なくありません

できれば長命であってほしいので、最後は「体が資本」ということでしょうか。若い頃無茶としたミュージシャンも健康に目覚めた人は息が長くなっている。矢沢永吉さんがぱっと思いつきます。

人間の体は一つの宇宙といますが、宇宙の物質でわかっているのは4、5%だそうですから、人間の体のことも、わかっているのはその程度ではないでしょうか。

宇宙も人体も絶妙のバランスで自らを保っている。それも潜在的な能力をまだまだ秘めている。身体に関する最新の研究成果などが時々新聞で紹介されますが、そのたびに、ほおーと感心。

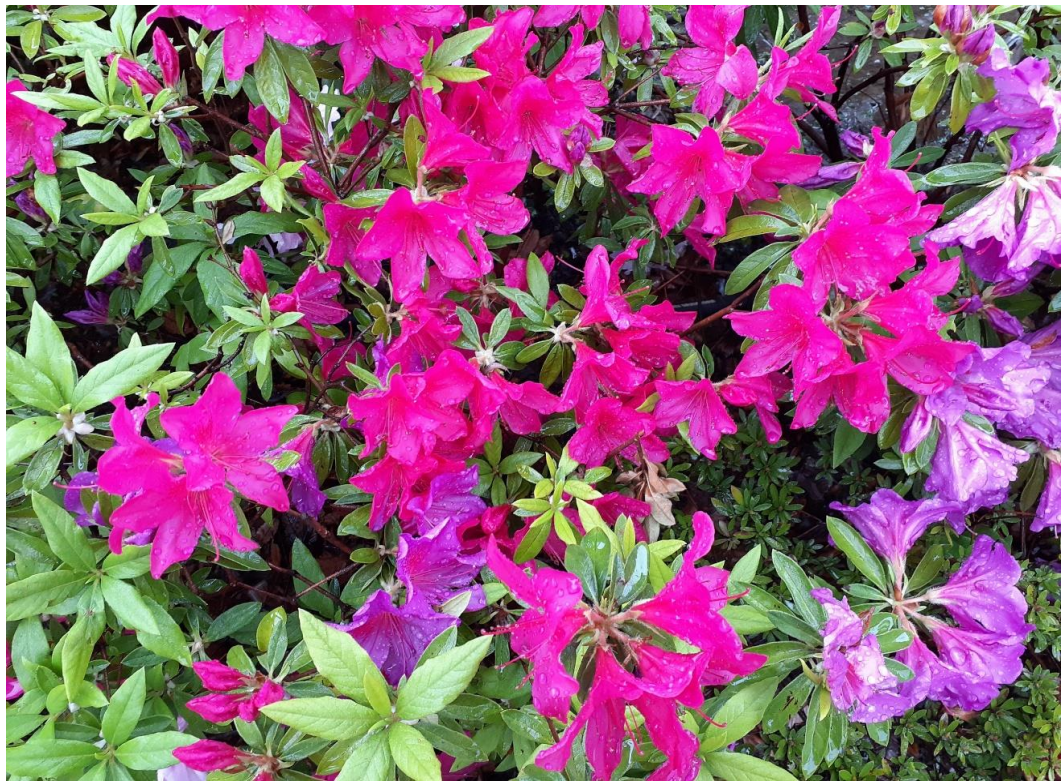
例えば6年前に載った『幸福感強い人 脳に傾向』。幸福感を強く感じる人は脳の「けつぜん部」という部位の体積が大きい傾向があるそう。ただし、「体積」が先か、「幸福」が先かはわからない、というのです。

幸せを感じるから「けつぜん部」の体積が大きくなるのか、もともと大きいから幸せを感じるのか…。わかってみると、わからないことがまだまだたくさんある、という典型のようです。

なにごとく、そう簡単にはわからない。そう捉えることが、「コツコツ」、「究めれば…」につながるともいえます。つまり謙虚さが大事ということでしょうか。「健康」と「謙虚」が明日を拓く？

2021年4月17日（土）

雨だからこそ、ちょっと散歩。ご近所さんの植垣の躑躅が色鮮やか！



2021年4月20日（火）穀雨 晴

昨日も今日も晴れ。花粉も終盤、黄砂も今日は飛んでこないそうで、紫外線だけ気をつければ、絶好の行楽日和。大阪は「宣言」発出目前。今のうちに遊んでおこうという人も多い？

－ 社会への関心、人への想い －

16日金曜日の音声版と「読書をする」にも紹介した「きたやまおさむ」。新装版にあらためて書かれた〈あとがき〉の終わり部分に、この方の想いが伝わり、人にも伝えたくくなります。

最後に、提案したいことが一つある。本書を読まれて、内面と外部の間で人生物語の紡ぎ出しのコツがわかる人はいいいのだが、もしも言葉が情緒や考えとうまく噛み合わないで人生物語が紡ぎ出せない時は、その見つからないという困難や虚しさに遭うことをも共にする誰かを見つけて欲しい。サイコセラピストや精神分析家はそのためのプロである。本書に示されたように、本の出会いだけでは人生物語は成し遂げられないのであり、「あなた」との「私」や「僕」の個別の出会いが不可欠なのだから。

「誰かを見つけてほしい」、同感です。心の深い問題でなくても、未来に混沌とする時は誰にもあるもの。ただし「自称プロ」も少なくないので、相手を正しく選ばないと逆効果になりかねません。

「プロ」と社会一般に認められる〈証明書〉はなくても、困難や虚しさを共にできる人もいますから、となると、「誰かを見つける」側の選び方しだいということになるのでしょうか。

困難や虚しさに遭っている場合は、そういった意欲が低下しているには
ず。真の「プロ」からすれば、本当に手助けすべき人は他にうもれてい
る、そんな想いがつよくなることでしょう。

だから「きたやまおさむ」は上記の提案を書いたんでしょうね。不遜な
がら、わたくしも同ように提案いたします。